

プレバソン®フロアブル5

■種類名：クロラントラニプロール水和剤
 ■有効成分：クロラントラニプロール ----- 5.0%
 ■化管法指定物質：クロラントラニプロール [第1種] ----- 5.0%

■登録番号：第22464号（エフィジー・ケミカル登録）
 ■毒性：普通物（毒劇物に該当しないものを指していう通称）
 ■登録初年：2009.09.28
 ■性状：淡褐色水和性粘稠懸濁液体
 ■有効年限：4年
 ■包装：250ml×40本、500ml×20本
 1ℓ×12本、2.5ℓ×4缶

プレバソン®はFMC Corporation またはその米国およびその他の国の子会社・関連会社の登録商標です。

【特長】

- ジアミド系有効成分クロラントラニプロール含有の野菜・畑作用の殺虫剤。
- チョウ目害虫、ハエ目害虫に高い効果を発揮する。また、散布だけでなく、灌注処理においても優れた効果を示す。
- 速やかに害虫の摂食活動を停止させ、長い残効性を示す（灌注処理で約4週間、茎葉処理で約2週間効果が期待できる）。
- 適用作物に対する安全性が高い。

【適用内容】（2024年1月31日現在）

作物名	適用害虫名	希釈倍数(倍)	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロラントラニプロールを含む農薬の総使用回数	
キャベツ	コナガ、アオムシ ヨトウムシ ハスモンヨトウ ハイマダラノメイガ ネキリムシ類 カブラハバチ類	100	セル成型育苗トレイ1箱 またはペーパーポット 1冊(約30×60cm、 使用土壌約1.5~4ℓ) 当り0.5 ℓ	育苗期後半 ~定植当日	1回	灌注	4回以内 (定植時までの処理は 1回以内、定植後の 処理は 3回以内)	
	コナガ、アオムシ ハスモンヨトウ ハイマダラノメイガ ウワバ類	500	苗地床1㎡当り2 ℓ					
	コナガ、アオムシ ヨトウムシ ハスモンヨトウ ハイマダラノメイガ ウワバ類 オオタバコガ	2000	100~300ℓ/10a	収穫前日まで	3回 以内	散布		
	20	1~2ℓ/10a	無人航空機による 散布					
はくさい	コナガ、アオムシ ヨトウムシ ハイマダラノメイガ カブラハバチ類	100	セル成型育苗トレイ1箱 またはペーパーポット1 冊(約30×60cm、使用土壌 約1.5~4ℓ)当り0.5 ℓ	育苗期後半 ~定植当日	1回	灌注		
	コナガ、アオムシ ヨトウムシ ハスモンヨトウ ハイマダラノメイガ カブラハバチ類 オオタバコガ	20	1~2ℓ/10a					3回 以内
エンサイ	ハスモンヨトウ	2000	100~300ℓ/10a	収穫前日まで	2回 以内	散布		
つるむらさき								3回以内
かぶ							2回以内	2回以内
非結球あぶらな科葉菜類(タアサイ、非結球はくさい、なばな類を除く)	コナガ ハモグリバエ類				2回 以内			
タアサイ	オオタバコガ							
非結球はくさい	ハスモンヨトウ	100	セル成型育苗トレイ1箱 またはペーパーポット 1冊(約30×60cm、 使用土壌約1.5~4ℓ) 当り0.5ℓ	育苗期後半 ~定植当日	1回	灌注	3回以内 (灌注は1回 以内、 散布は2回 以内)	
	コナガ ハモグリバエ類	2000	100~300 ℓ/10a					収穫前日まで

作物名	適用害虫名	希釈倍数(倍)	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クワントリコロールを含む農薬の総使用回数		
なばな類	アオムシ	100	セル成型育苗トレイ1箱 またはペーパーポット1冊 (約30×60cm、 使用土壌約1.5～4%) 当り0.5%	育苗期後半 ～定植当日	1回	灌注	4回以内 (灌注は1回 以内、散布は 3回以内)		
	コナガ ハモグリバエ類 アオムシ ハスモンヨトウ	2000	100～300%/10a	収穫前日まで	3回 以内	散布			
	アマランサス(莖葉)						シロオビノメイガ		
	だいこん				コナガ、アオムシ ヨトウムシ ハイマダラノメイガ	1回	1回		
はつかだいこん	カブラハバチ類 ハモグリバエ類				3回 以内		4回以内 (灌注は1回以 内、散布は3回 以内)		
カリフラワー	コナガ、アオムシ ハスモンヨトウ	100	セル成型育苗トレイ1箱 またはペーパーポット1冊 (約30×60cm、 使用土壌約1.5～4%) 当り0.5%	育苗期後半 ～定植当日	1回	灌注	4回以内 (定植時までの 処理は1回以 内、定植後の処 理は3回以内)		
ブロッコリー	コナガ、アオムシ ハスモンヨトウ ハイマダラノメイガ オオタバコガ	2000	100～300%/10a	収穫前日まで	3回 以内	散布	4回以内 (定植時までの 処理は1回以 内、定植後の処 理は3回以内)		
		20	1～2%/10a			無人航空機による 散布			
レタス	ヨトウムシ ハスモンヨトウ オオタバコガ	2000	100～300%/10a			20	1～2%/10a	散布	4回以内 (定植時までの 処理は1回以 内、定植後の処 理は3回以内)
								無人航空機による 散布	
	ハモグリバエ類	1000 ～ 2000	100～300%/10a		散布				
	ヨトウムシ ハスモンヨトウ オオタバコガ ハモグリバエ類 ネキリムシ類 ヒメフタテンヨコバイ	100	セル成型育苗トレイ1箱 またはペーパーポット1冊 (約30×60cm、 使用土壌約1.5～4%) 当り0.5%	育苗期後半 ～定植当日	1回	灌注			
茎ブロッコリー	ハスモンヨトウ	2000	100～300%/10a	収穫前日まで	3回 以内	散布	4回以内 (灌注は1回以 内、散布は3回 以内)		
		100	セル成型育苗トレイ1箱 またはペーパーポット1冊 (約30×60cm、 使用土壌約1.5～4%) 当り0.5%	育苗期後半 ～定植当日	1回	灌注			
非結球 レタス	ヨトウムシ ハスモンヨトウ オオタバコガ ハモグリバエ類 ネキリムシ類 ヒメフタテンヨコバイ	100	セル成型育苗トレイ1箱 またはペーパーポット1冊 (約30×60cm、 使用土壌約1.5～4%) 当り0.5%	育苗期後半 ～定植当日	1回	灌注	4回以内 (定植時までの 処理は1回以 内、定植後の処 理は3回以 内)		
	ヨトウムシ ハスモンヨトウ オオタバコガ ハモグリバエ類	2000	100～300%/10a	収穫前日まで	3回 以内	散布			
		20	1～2%/10a			無人航空機による 散布			
トマト	ハモグリバエ類	1000 ～ 2000	100～300%/10a	育苗期後半 ～定植当日	1回	散布	4回以内 (定植時までの 処理は1回以 内、散布は 3回以内)		
	オオタバコガ	2000							
	ハモグリバエ類 コナジラミ類	100	1株当り25mℓ			1回		灌注	
		200	1株当り50mℓ						

作物名	適用害虫名	希釈 倍数 (倍)	使用液量	使用時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	クワントリア [®] ロール を含む農薬の 総使用回数
ミニトマト	ハモグリバエ類 コナジラミ類	100	1株当り25mℓ	育苗期後半 ～定植当日	1回	灌注	4回以内 (灌注は1回 以内、散布は 3回以内)
		200	1株当り50mℓ				
	ハモグリバエ類 オオタバコガ	2000	100～300ℓ/10a	収穫前日まで	3回 以内	散布	
なす	ハスモンヨトウ ハモグリバエ類 ネキリムシ類	100	1株当り25mℓ	育苗期後半 ～定植当日	1回	灌注	3回以内 (定植時まで の処理は 1回以内、 散布は 2回以内)
	ハモグリバエ類	200	1株当り50mℓ				
			1000 ～ 2000	100～300ℓ/10a	収穫前日まで	2回 以内	散布
	ハスモンヨトウ オオタバコガ	2000					
とうがらし類	ハスモンヨトウ コナジラミ類	100	1株当り25mℓ	育苗期後半 ～定植当日	1回	灌注	4回以内 (灌注は1回以 内、散布は3回 以内)
	ハスモンヨトウ オオタバコガ	1000 ～ 2000	100～300ℓ/10a	収穫前日まで	3回 以内 2回 以内	散布	
ピーマン	ハスモンヨトウ コナジラミ類	100					3回以内 (灌注は1回以 内、散布は2回 以内)
きゅうり	ハモグリバエ類	100 ～ 200	1株当り25mℓ	育苗期後半 ～定植当日	1回	灌注	4回以内 (定植時まで の処理は 1回以内、散布 は3回以内)
		200	1株当り50mℓ				
		1000 ～ 2000					
	ウリノメイガ	2000					
ズッキーニ	ハモグリバエ類	1000					
メロン すいか	オオタバコガ ハモグリバエ類			収穫前日まで			3回以内
とうがん にがうり	ハスモンヨトウ						
いちご					2回 以内		2回以内
パセリ	ヨトウムシ	2000	100～300ℓ/10a	収穫7日前 まで	1回	散布	2回以内 (灌注は1回以 内、散布は1回 以内)
せり科葉菜類 (パセリを除く)				収穫7日前 まで 但し、みつば の伏せ込み栽 培は伏せ込み 前まで			1回
らっきょう	ハモグリバエ類						3回以内
ねぎ	シロイチモジヨトウ ネギコガ ハモグリバエ類	20	1～2ℓ/10a	収穫3日前 まで	3回 以内	無人航空 機による 散布	4回以内 (灌注は 1回以内、 定植後の処理 は3回以内)
	ハモグリバエ類	100	セル成型育苗トレイ1箱ま たはペーパーポット 1冊 (約30×60cm、使用土壌約 1.5～4ℓ)当り0.5 ℓ	育苗期後半 ～定植当日	1回	灌注	
えだまめ	オオタバコガ ハスモンヨトウ	4000	100～300ℓ/10a	収穫3日前 まで	3回 以内	散布 無人航空 機による	3回以内
だいず	マメシンクイガ ウコンノメイガ	16～ 32	0.8ℓ/10a	収穫7日前 まで	2回 以内	散布 散布	2回以内
		4000	100～300ℓ/10a				

作物名	適用害虫名	希釈 倍数 (倍)	使用液量	使用時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	カウンタリテ [®] ロール を含む農薬の 総使用回数							
あずき	アズキノメイガ ハスモンヨトウ	4000	100~300 μ g/10a	収穫7日前 まで	2回 以内	散布	2回 以内							
未成熟ささげ	ハスモンヨトウ	2000		収穫前日まで	3回 以内		3回以内							
未成熟そらまめ	ハモグリバエ類	1000 ~ 2000												
さやいんげん	ハスモンヨトウ ハモグリバエ類	2000												
豆類(種実、 ただし、だい ず、あずき、 らっかせいを 除く)	ハスモンヨトウ	4000	収穫7日前 まで	2回 以内	2回以内									
実えんどう さやえんどう	ハスモンヨトウ ハモグリバエ類	2000	100~300 μ g/10a	収穫前日まで	3回 以内	散布	3回以内							
やまのいも	ハスモンヨトウ ナガイモコガ	20						1~2 μ g/10a	無人航空 機による 散布					
かんしょ	ハスモンヨトウ アリモドキゾウムシ ナカジロシタバ	2000 ~ 4000						100~300 μ g/10a	散布					
		16						0.8~1.6 μ g/10a	無人航空 機による 散布					
ほうれんそう	ハスモンヨトウ シロオビノメイガ	2000						100~300 μ g/10a	散布					
さといも	ハスモンヨトウ	20						1~2 μ g/10a	無人航空 機による 散布					
アスパラガス		2000						100~300 μ g/10a	2回 以内	散布	2回以内			
モロヘイヤ														
しそ科葉菜類 (えごま(葉) を除く)												収穫3日前 まで	3回 以内	3回以内
えごま(葉) ふき														
ふき (ふきのとう)			収穫120日前 まで	2回 以内	2回以内									
クレソン (土耕栽培)			コナガ	収穫3日前 まで	3回 以内	3回以内								
ごま			オオタバコガ	収穫14日前 まで	2回 以内	2回以内								
飼料用 とうもろこし (子実)			アワノメイガ オオタバコガ ツマジロクサヨトウ	20	1~2 μ g/10a	収穫前日まで	3回 以内					無人航空 機による 散布	4回以内 (は種前の塗 沫処理は1回 以内、は種後 は3回以内)	
未成熟 とうもろこし				2000	100~300 μ g/10a									散布
とうもろこし (子実)	20			1~2 μ g/10a	無人航空 機による 散布									3回以内

作物名	適用害虫名	希釈倍数(倍)	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	カウントリテラ [®] ロールを含む農薬の総使用回数
オクラ	オオタバコガ ハスモンヨトウ	2000	100～300 μ g/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
		20	1～2 μ g/10a			無人航空機による散布	
しょうが	ハスモンヨトウ	2000	100～300 μ g/10a			散布	
		20	1～2 μ g/10a			無人航空機による散布	
とうき	キアゲハ	2000	100～300 μ g/10a	発生初期	4回以内	散布	4回以内
たばこ	ヨトウムシ		100～180 μ g/10a	収穫10日前まで	2回以内		2回以内

【効果・薬害等の注意】

- 使用前によく振ってから使用すること。
- 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
- 散布液調製後はできるだけ速やかに散布すること。
- 使用液量は、対象作物の生育段階、栽培形態及び使用方法に合わせて調節すること。
- 本剤を無人航空機による散布に使用する場合は次の注意事項を守ること。
 - ◆ 散布は散布機種種の散布基準に従って実施すること。
 - ◆ 散布に当っては散布機種種に適合した散布装置を使用すること。
 - ◆ 散布中、薬液の漏れのないように機体の散布配管その他散布装置の十分な点検を行うこと。
- 過度の連用をさけ、可能な限り作用性の異なる薬剤やその他の防除手段を組み合わせ使用すること。
- つまみ菜、間引き菜には使用しないこと。
- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- 空容器は圃場などに放置せず、3回以上水洗し、環境に影響のないよう適切に処理すること。洗浄水はタンクに入れること。
- 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

【安全使用上の注意】

- ❖ 誤飲などないように注意すること。
- ❖ 本剤は眼に対して弱い刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗すること。
- ❖ 本剤は皮ふに対して弱い刺激性があるので皮ふに付着しないよう注意すること。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。
- ❖ 使用の際は手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用して薬剤が皮ふに付着しないよう注意すること。
- ❖ 魚毒性等：水産動植物（甲殻類）に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
無人航空機による散布で使用する場合は、飛散しないよう特に注意すること。
使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきること。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。
- ❖ 保管：直射日光をさけ、なるべく低温な場所に密栓して保管すること。